



小中一貫教育だより

平成28年3月23日 No.24
(小中一貫教育推進だよりから 通算No.58)
十日町市教育委員会学校教育課



「ふるさとを愛し自立して社会で生きる子ども を育てるまち」に向けて

「十日町市第二次総合計画」「前期基本計画（平成28年度から平成32年度）」

十日町市教育委員会 学校教育課長 島田 敏夫

小雪の冬のためか、いつもになく春らしさを感じる時期が早いように思うこの頃です。

さて、今年度、市では今後10年先を見据えた「十日町市第二次総合計画」及び、平成28年度から平成32年度までの「前期基本計画」を策定しました。その中の「基本方針1：人にやさしいまちづくり、政策2：ふるさとを愛し自立して社会で生きる子どもを育てるまち、施策①：学校教育の充実」の施策の展開の一つに「小中一貫教育の推進」として下記の内容をあげています。

【小中一貫教育の推進】

- ① 平成26年度から全小中学校で開始した小中一貫教育を継続し教育活動を行うため、家庭や地域と連携しながら小中一貫型小学校・中学校(仮称)や義務教育学校の設置を推進します。
- ② 小学校5年から中学校1年までの3年間を一つの指導区分として一体的にとらえ、連続性ある教育活動を展開し、学力向上や不登校児童生徒への対応の充実、中一ギャップを生まない取組に努めます。
- ③ 各中学校区内での児童生徒などの交流活動等を積極的に行い、自己有用感を醸成し、コミュニケーション能力などの社会性を育みます。

今後、教育委員会としても推進の具体的な施策や支援策を検討する必要がある訳ですが、次年度の小中一貫校育の計画を立てる際に各学校や中学校区において今後5年先を見据え、下記について見直しの視点の一例として今後検討をお願いします。

＜①について＞ 学校教育法の改正により、小中一貫教育が制度化され具体的な取組ができるようになりました。そこで、各学校区としての特色を生かした推進スタイルの検討が必要になると思います。そのためには、学校・家庭・地域の連携をこれまで以上に強化し、適切な対応ができるよう各学校区の小中一貫推進会議等についてコミュニティスクール的な視点を取り入れていくことも必要になってくると考えています。

＜②について＞ 「不登校児童生徒の減少」は、最重要課題です。今年度、新たな不登校を生まないための研修を踏まえた取組を実施し、一定の成果が見られたと考えています。今後、小学校5年から中学校1年までの3年間を一つの指導区分とした具体的な教育活動をどのように展開するか具体化が必要になると考えています。

＜③について＞ これまで各中学校区では様々な小小連携、小中連携の取組を行っていただきました。その取組について、日常活動等との関連を踏まえ教職員、児童生徒にとって負担増にならないように、精選・重点化と内容の改善をお願いしたいと思っています。また、少し違った視点になりますが、当市の児童生徒は将来の夢や目標を持つことがやや低い傾向が見られます。そのため、キャリア教育の視点を小中一貫教育の取組の中に取り入れていただきたいと考えています。



今年度も後わずかとなりました。今年度の各学校、中学校区の取組に感謝するとともに、新年度、教職員及び児童生徒が新たな目標を持ってスタートができることを期待しています。

■小中一貫教育 1 日異校種体験研修を振り返って

本年度の新規事業「1 日異校種体験研修」を振り返って、その概要と、成果考察をまとめてみました。意欲的に参加した 36 人の教職員は押しなべて異校種の学校の文化を改めて認識した、授業改善の視点を見付けた、小中一貫の大切さを認識した、などと述べていました。

1 1 日異校種体験研修実施状況

拡大中学校区(7)	南中学校区(4)	水沢中学校区(3)	中里中学校区(5)	川西中学校区(4)
十日町小 1 人 東小 1 人 中条小 1 人 飛一小 1 人 十日町中 2 人 中条中 1 人	川治小 1 人 西小 1 人 南中 2 人	水沢小 1 人 馬場小 1 人 水沢中 1 人	田沢小 1 人 倉俣小 1 人 貝野小 1 人 中里中 2 人	千手小 1 人 上野小 1 人 橘小 1 人 川西中 1 人
	下条中学校区(2)	吉田中学校区(4)	松代中学校区(2)	松之山中学校区(5)
	下条小 1 人 下条中 1 人	吉田小 1 人 鑑島小 1 人 吉田中 2 人	松代小 1 人 松代中 1 人	松之山小 3 人 松之山中 2 人

■実施校 29 校（市内全小中学校が実施）

■実施者数 36 人（小学校教員 21 人、中学校教員 15 人）

■実施研修 38 回（半日ずつ 2 回実施した者が 2 人）

■職種 教諭 35 人、養護教諭 1 人



2 異校種研修の内容

研修参加の態様	実施数（人）		備 考
	小学校教諭	中学校教諭	
参観のみ	5	2	給食、清掃等一緒に活動した、を含む。
T T 授業協力 授業補助	11	4	※計画的に打ち合わせをして T T 授業をする場合と、机間巡視をしながら指導するもの等、態様は多岐にわたる。
授業実施	5	9	小学校；社会、数学、道徳、部活指導 中学校；社会、理科、英語、音楽、体育

3 成果・感想

	職種	感想・考察
異校種体験研修者	小学校教員	○1年後の姿として足りない部分や学校生活の違いを、児童（6年）に伝えることができるので、早い時期に研修を実施して非常に参考になった。
		○今回の研修を生かして、低学年のうちから段階を追って伝え合う力や学習規律を高められるよう学校全体で取り組んでいきたい。
	中学校教員	○普段、中学校で体験できない経験ができた。小学校6年間、中学校3年間でそれぞれ子どもを育てていくのではなく、9年間で段階的に指導していくことが重要であることを認識した。
		○中学校では、小学校の学習を学びなおして更に深める内容が多い。「振り返る内容」と「深める内容」を区別することで、重点化する課題を設定していきたい。
受入校	小学校校長	○学級担任制で過ごす小学校の児童の姿を知ること、入学直後の心理的不安を低減させようとする意識が感じられた。また、教科の専門性を生かした授業を行う中で、系統性をさらに意識した授業改善が行えるものと考ええる。

	中学校校長	○「小中一貫教育は、小中教職員の交流から」という思惑通りの研修となった。
所属校	小学校校長	○多忙を極める高学年担任として、日々の授業の中では「学びの系統性」について強く意識することは決して多くない。中学校に赴き、授業に直接かかわることで、小学校段階ではどのような力を高めていく必要があるか実践的に研修する最良の機会を得たものだと思う。
	中学校校長	○「貴重な体験でした。」と帰校するや否や満面の笑顔で報告があった。初等教育における指導の丁寧さや環境構成、教科指導の系統性などの重要性を実感する機会となった。小中一貫教育を意識した中等教育の更なる充実につなげることを期待する。

4 考察・課題

- 終日異校種で過ごし、体験することで、小学校文化・中学校文化を改めて認識し、それぞれの良さを認めている教職員が思った以上に多かった。2人以上実施した学校もあった。
- 校種を超えて授業実践することで、新たな授業改革の意識が、所属校・受入校それぞれの学校職員に出てきたケースが多い。
- 小中学校での学びの繋がりを具体的に意識でき、精選・重点化する必要を感じることができた。
- 早い時期に計画的に実施し、そこで得たものを全職員で周知・共通理解することが大切。
- 「目的」や「ねらい」をもって参加することで、何かを得ている場合が多い。実施者と受入校が十分に話し合い、“体験させたいこと”、“求めるもの”を明確にする必要がある。
- ぜひ、異校種で授業実践してみたい。

■特集 統括コーディネーターとして1年間を振り返って(2)



充実の1年が終わります／大切な1年が始まります

松之山中学校区統括コーディネーター 小林 貴英

平成29年度、小中施設一体型校舎における教育活動が始まります。教育活動の中核は、児童生徒のふるさとを愛する心を育むことです。生活科、総合的な学習の時間がカギになります。今年度、五島由美子先生による「総合的な学習の時間」に関する小中合同研修会をもちました。それ以降、松之山小中職員は協働して、小中9年間のカリキュラムを作ってきました。次年度はそれを試行し、修正を加えていきます。地域の様々なリソースを取り込み、地域の人々と関わる教育を展開していきます。

今年度実施した異校種体験では、5人の教諭が自発的に体験しました。授業と学校生活、職員交流を通して新たな発見をし、この取組の良さを実感したようです。次年度の交流ではどんなことができるか職員からアイデアを募集していきます。

児童生徒の交流もありました。2年目となった小中合同文化祭では、先輩後輩の活躍する姿を見ることができました。また、別の日には、高学年と中学生が少人数班を構成して、ネットトラブル防止に関する意見交流をしました。来年度はさらにたくさん交流を行い、再来年度のスタートにつなげようと考えています。

職員、児童生徒ともに充実した1年でした。新たな松之山誕生に向けた年度が始まります。

最後に、3年前に松之山で誕生したゆるキャラ“ゆとっと”が活躍する場を増やしたいと考えています。





新たな小中一貫した取組がスタート

吉田中学校区統括コーディネーター 川合 徹人

吉田中学校区では、学力向上のためには家庭学習の充実が不可欠である考え、「吉田の家庭学習 5ヶ条」の取組を平成 20 年 9 月から実施して成果を上げてきました。最近では、子どもを取り巻く環境の変化に対応するための新たな取組の必要性が、ささやかれるようになってきていました。そして今年度、新たな

二つの小中一貫した取組をスタートすることができました。

一つ目が「吉田の生活のきまり 5ヶ条」です。中学校区内の学校ごとにあった生活のきまりや長期休業中のきまりを基に作成し、小中一貫して指導したいと考えました。そのために平成 26 年 7 月から、3 校の全職員が参画して原案を作成し、3 校合同 P T A や生徒指導連絡協議会での話し合いを経てやっと完成しました。今年度 4 月から 3 校で一貫して取り組んでいます。

二つ目は「インターネット使用点検表」です。全国的に問題となっているネットの使用について、いち早く小中一貫した取組を行うことが効果的で大切であると考えました。「親と決めたルールを守っていますか？」というような 15 項目についてのチェックリストを活用して、日常のネット使用についての自己点検を行うものです。3 校の職員と合同の P T A での話し合いを経て完成し、7 月から開始することができました。

今後も、これらを柱とした吉田の小中一貫教育を一層推進していきます。



小中双方向の乗り入れ授業をめざして

馬場小学校小中一貫教育コーディネーター 市村 信明

水沢中学校区の乗り入れ授業について紹介します。

一つ目は、6 年生理科の地層見学です。中学校教員から化石が見つかることがあると聞いた児童は、地層のスケッチを熱心に続けたり、植物化石（亜炭）を探し出したりすることができました。このように、ポイントを押さえた指導により、児童の意欲の向上が見られました。

二つ目は、体力向上に向けた実践です。中学校区内の児童生徒の体力テストの結果を受けて、小学校から継続して体力向上の取組をしています。今年度は、中学校体育教員による乗り入れ授業を「投力」向上に重点を置いて、4 月に実施しました。児童は、中学校体育教員の指導に新鮮さを感じ、重心の移動やミニゲームを取り入れた運動に意欲的に挑戦することができました。小学校の体育授業においても、その指導を取り入れた授業を継続してきました。

三つ目は、小学校教員による中学校の授業への乗り入れです。今年度から 1 日異校種体験研修が始まりました。小学校教員が教科担任制で専門性の強い中学校で体験研修を行うのは難しい課題ですが、6 年生の担任が中学校 3 年生の数学の授業に入り、小学校の丁寧できめ細やかな指導で生徒の学力向上をねらいました。生徒からはクイズをとおしてこれまで忘れていたことが復習できてよかったという感想がありました。

乗り入れ授業では、児童生徒の意欲的に取り組む姿が見られました。これからも小中双方向の乗り入れ授業のスタイルを模索していきます。





「チーム中里」のチームワークで更なる発展を目指して

中里中学校区統括コーディネーター 川尻 優

当中学校区は、小中一貫教育モデル事業の3年間の指定を経て、今年度で本格実施2年目、合わせて5年の取組を終了します。これまでの成果と課題を踏まえ、今年度は組織を大幅に見直し、より円滑な取組を目指しました。1年間の取組を通して、職員アンケートの「小・中のつながりを意識して取り組んでいるか」に対する肯定的な回答が100%となり、「無理のない形で活動を進めることができた」という意見が多数聞かれました。「チーム中里」が3小1中の垣根を取り払い、チームワークの良さを発揮したことで、中里地区の小中一貫事業がこれまで以上に各校に根付いた1年となりました。

中里地区小中一貫教育の推進の基となる「中里の子育成プラン（第1次）」は、3か年の取組が計画されており、来年度は取組の最終年となります。最終年を迎えるに当たり、「小中一貫事業の質的向上（マナー化しないための工夫）」「第1次プランの実践と同時に『中里の子育成プラン（第2次）』を立案すること」が課題です。そのために、小小・小中交流活動の見直しと改善に加え、統合に備えた2小の計画的な授業交流を推進していきます。

4校の職員が、お互いに気軽に声を掛け合うことができるのが「チーム中里」です。この良さを最大限に生かし「日常的な研修」を取組の中核に据えながら、中里地区小中一貫教育の更なる発展を目指して、チーム一丸となって取り組んでいきます。



南中学校区の取組の重点（二本柱）から

南中学校区統括コーディネーター 佐藤 孝幸

当中学校区は、「学習意欲の向上と基礎・基本の定着」と「認め合い支え合う人間関係づくり」を取組の重点（二本柱）としています。また、その二本柱を支える土台として、「生活習慣の確立」を目指して取り組んでいます。

重点の一つ、「学習意欲の向上と基礎・基本の定着」に向けて、3校共通の「学びの約束3か条（授業準備、話の聞き方、挨拶・返事）」の徹底を図っています。継続して指導することで、各校で定着されてきました。また、「分かる・できる板書作り」に向けた取組は3年目となり、職員の板書に対する意識が高まってきています。

重点のもう一つ、「認め合い支え合う人間関係づくり」として、小学校5学年のゲーム中心の交流、6学年でのレクリエーション交流、授業場面を想定した交流、体験入学時の授業交流という流れで徐々にステップアップする交流活動を行っています。子どもたちが交流を通して少しずつ打ち解け、その後自然に関わる姿が見られ、授業形式の交流では互いの考えや思いを伝え合い、感じ方の違いにも気付く様子が見られました。

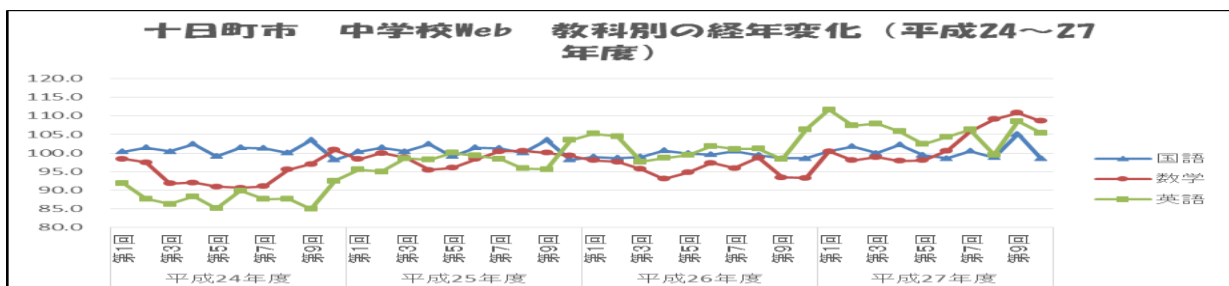
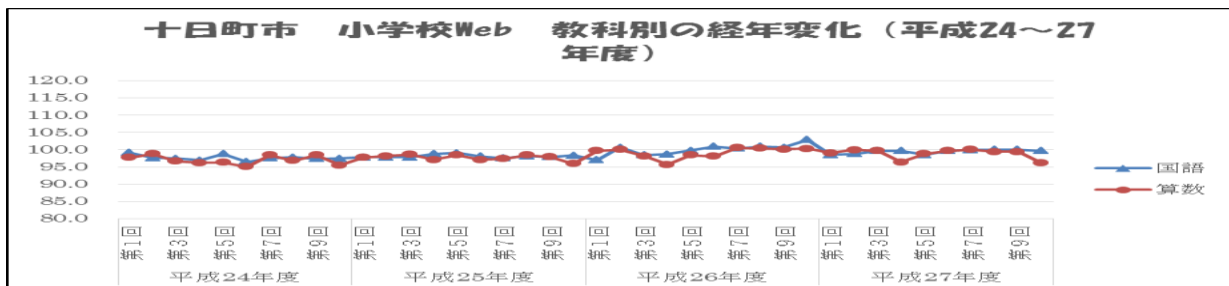


また、今年度の中学1年生は早い段階で川治小学校と西小学校2校の子どもたちが積極的に関わる様子が見られました。

今後も、こうした小中一貫教育を生かした取組を継続していきます。

教育センターから

■Web配信集計システムにおける十日町市の学力の状況について



過去4年間のWeb配信集計システムにおける十日町市の到達率は上のグラフのとおりです。
（県平均を100とした場合の十日町市立学校の平均の指数）

【小学校】

- わずかに県平均を下回るものの、ほぼ県平均並みの到達率となっています。年度によって、ほとんど変化はなく、安定的です。

【中学校】

- 国語は県平均とほぼ同等の到達率となっています。
- 数学は平成26年までは県平均以下でしたが、今年度は右肩上がりの傾向があり、特に今年度後半は著しく伸びました。
- 英語は右肩上がりの傾向が継続し、今年度は県平均を大きく超える到達率です。

Web配信問題をさせるだけでは学力は上がりません。Web配信システムを効果的に活用した授業改善を行うことが確かな学力の向上につながります。そのために、平成28年度は次のことに力を入れたいものです。

●子どもの傾向を知る

新しい単元に入る前に過去問題の正答率データをチェックし、子どもたちに定着しにくい学習内容を洗い出し、アクティブに学ばせる。

●教師自身を知る

学年、学級の年間推移グラフから自分自身の指導の傾向を把握して、指導を工夫改善する。

●1問を確実に定着させる

できなかった問題は補充学習で確実に定着させる。

●全校体制で取り組む

全校体制でWeb配信集計システムに取り組み、効果の上がった取組を全職員で共有する。

●仲間と学ぶ

学校の垣根を越えた教科担任どうしの学び合いが、指導技術を高めます。

Web配信集計システムは子どもたちの学力を評価するためのものではありません。教師自身の指導力を評価するものです。Web配信集計システムを有効に活用して、みなさんの授業力をアップしていきましょう。

生徒指導コラム

■特別支援教育研修講座 参加者の声から

今年度も、生徒指導、特別支援教育等の研修会に多くの先生方から参加いただきありがとうございました。中でも特別支援教育研修講座は、毎回35人を超える登録者が、年間11回にわたり受講しました。受講者の声を紹介します。

＜小学校の受講者＞

1年間のまとめではこの1年間の自分の取組を振り返り、成果と課題を確認することができました。また、他の先生方の発表を聞いて、支援の工夫やさまざまな実践など参考になることがたくさんありました。小・中での連携、中学校卒業後の進路の問題、まだまださまざまな問題があることを気づかせていただきました。ありがとうございました。

＜中学校の受講者＞

11回、終わってみるとあっという間でした。毎回勉強になることばかりで、学級でもいろいろ実践させていただいています。この研修は、ぜひ、通常学級を担当している先生方にも受けていただきたいと思いました。「インクルーシブ教育」が提唱されている昨今、まだまだ、研修が不十分だという場面を目にすることがよくあります。この研修で学んだことを忘れずに、今後の生活に生かしていきたいと思います。

■中学校区の取組紹介（3月～4月）

中学校区名	平成27年度3月の取組	平成28年度4月の予定
拡大中学校区	■ 新入生小中引継会 3月9日（水）十小一十中 3月10日（木）中条小一中条中 3月11日（金）東小一十中、東小一中条中 3月15日（火）飛一小一中条中	☐ 4月20日（水）小中情報交換会
南 中学校区	 ■ 3月1日（火）南中学校区教職員協議会 教育推進会議 16:00～川治小 ■ 3月11日（金）小中連絡会 ■ 3月14日（月）英語出前授業（川治小） ■ 3月16日（水）英語出前授業（西小） ■ 3月16日（水）小中養護教諭連絡会	☐ 4月22日（金）南中学校区教職員協議会教育推進会議 15:00～ 南中
吉田中学校区	■ 3月10日（木）吉田中学校区生徒指導連絡会 中学校区の生徒指導上の課題に関わる協議 ■ 3月15日（火）吉田中学校区校長教頭合同会議	☐ 4月20日（水）吉田中学校区校長・教頭・教務主任会 ☐ 4月26日（火）吉田地区教育振興会総会
下条中学校区	■ 3月9日（水）新入生体験入学 8:20～13:10 授業・給食体験 	☐ 4月中は小中一貫教育に関わる特別な活動はありません。5月13日（金）の「小中交流活動はじめての集い」からスタートします。

水沢中学校区	■ 3月4日(金)第4回進学指導委員会 14:45～水沢中 ■ 3月16日(水)教頭・教務合同会議 16:00～水沢中 次年度の小中一貫教育の協議	□ 期日未定；小中一貫教育“体部会” □ 期日未定；地区教職員協議会役員会 小中一貫教育年間取組計画の検討
川西中学校区 	■ 3月7日(月) 1日異校種体験研修 中学校教諭(数学)→千手小 ■ 3月7日(月) 乗り入れ授業 中学校教諭(音楽)→橘小合唱指導	□ 4月13日(水) 川西地域教職員協議会 兼小中一貫教育計画訪問
中里中学校区	■ 3月15日(火)中里地区校長・教頭会 ■ 3月17日(木) 「ようこそ先輩」服部勇馬選手をお迎えして (午前田沢小、午後中里中) 	□ 4月14日(木)第1回中里地区小中一貫教育推進部会 □ 4月26日(火)中里地区PTA連合会代議員会総会・面識会
松代中学校区	■ 3月16日(水)小中引継会 ■ 3月23日(水)小中一貫教育だより「まつだいの子」発行	□ 4月27日(水)松代小中後援会代議員会
松之山中学校区	■ 1月～3月の継続的取組 「総合的な学習の時間」のカリキュラムづくり 小中学校教職員全員で、班分けをして取り組んでいます。	□ 4月1日(金)小中合同研修会 キョロロ館長講演 □ 4月5日(火)小中一貫準備会議 □ 4月8日(金)松之山中学校校舎での最後の入学式 □ 4月26日(火)“まつのやま子育て推進委員会”第1回運営委員会